

トンネル被覆によるコゼナダイコンの硬化抑制法

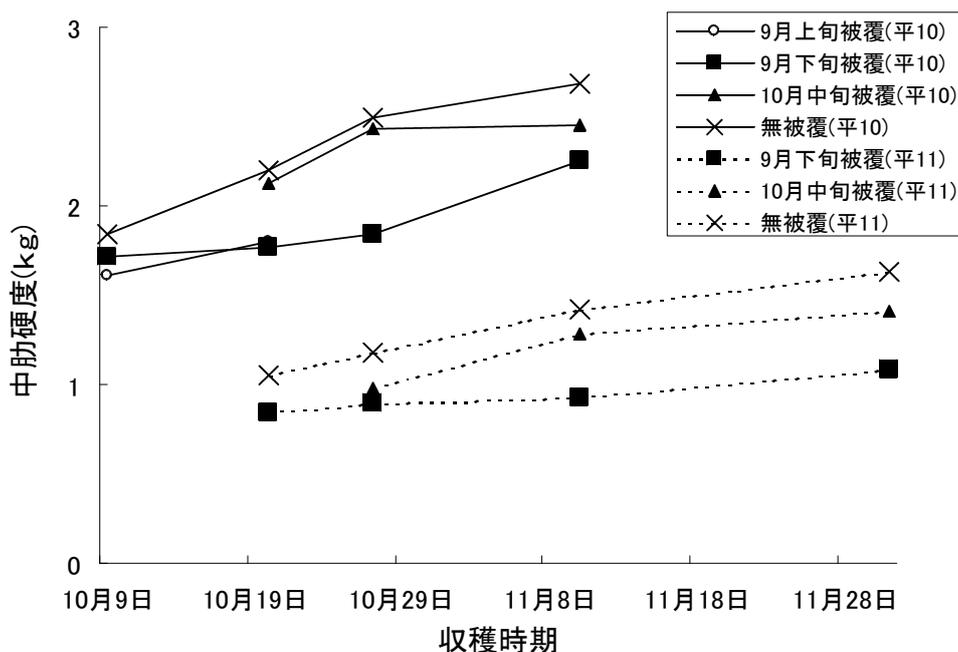
農業センター

1 取り上げた理由

コゼナダイコンは小野田町で栽培されている、葉の中肋部分のみを食用とするダイコンである。中肋部分は主に浅漬けに加工されるが、収穫時期が遅くなると中肋が硬化し、官能評価が下がるという問題があった。そこで、トンネル被覆による硬化抑制法について検討したところ、成果が得られたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 9月下旬からトンネル用ビニールフィルムでトンネル被覆することにより、無被覆栽培と比較して中肋の硬化を抑制することができる。



図一 収穫時期と中肋硬度の関係(平10,11)

注) 平成10年の9月上旬被覆区は高温による枯死のため調査継続不能となった。

3 利活用の留意点

- 1) 播種時期，栽植様式，施肥等は慣行栽培に準じる。
- 2) 被覆開始から収穫終了までに約20cm程度草丈が伸びるので，トンネルの高さはあらかじめ余裕をもたせる。
- 3) 9月下旬より早期に被覆すると，高温障害が発生することがある。

(問い合わせ先：農業センター農産部 電話022-383-8119)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

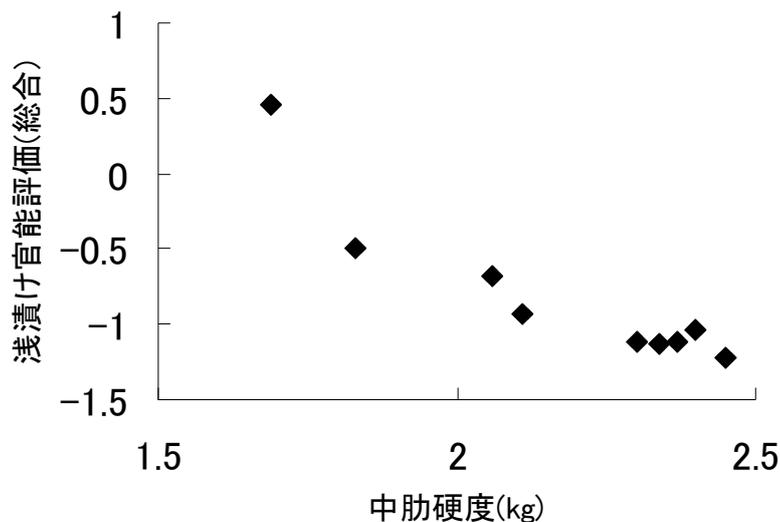
中山間地域の特性を活かした畑特作物高生産性栽培技術体系の確立（平10～11年）

2) 参考データ

表－1 中肋の硬度及び草丈の推移

収穫日 (月/日)	平成10年				平成11年				
	9月下旬被覆		無被覆		9月下旬被覆		無被覆		
	硬度 (kg)	草丈 (cm)	硬度 (kg)	草丈 (cm)	硬度 (kg)	草丈 (cm)	硬度 (kg)	草丈 (cm)	
10/ 9	1.72	49.9	1.84	44.0	10/18	0.84	53.4	1.05	52.2
10/20	1.77	56.2	2.20	51.6	11/ 1	0.90	63.1	1.18	58.4
10/27	1.84	67.0	2.50	59.2	11/15	0.93	70.8	1.42	66.3
11/10	2.25	69.1	2.68	62.8	12/ 1	1.08	74.8	1.63	70.9

注) 硬度は試料を水洗後、地際から約5cmと25cmの2か所について、レオメーターでプランジャー貫入時の最大加重（貫入抵抗）を測定した。



図－2 中肋硬度と浅漬け官能評価の関係(平10)

注) 中肋硬度は漬け込み前のもの

表－2 経費試算

資材名	規格	単価 (円)	a 当たり経費 (円)
トンネルエース	幅270cm, 厚さ0.05mm, 100m巻	12,350	10,288
トンネル支柱	S型	138	11,500

3) 発表論文等

なし